



住民の生活DXを通して、地域をアップデートするアプリ



自治体情報やサービスを住民に「探させる」から「届ける」へ。
多様な機能で、デジタル化の先へ、住民体験の変革を実現します。

自治体ポータルサービス「クラシラセル®」のご提案

現状、自治体では住民の方への情報提供や窓口業務の業務負荷などの課題を抱えており、自治体DXを進めていく中でも潜在的な課題が多く存在しています。

住民の方に
情報が届いていない

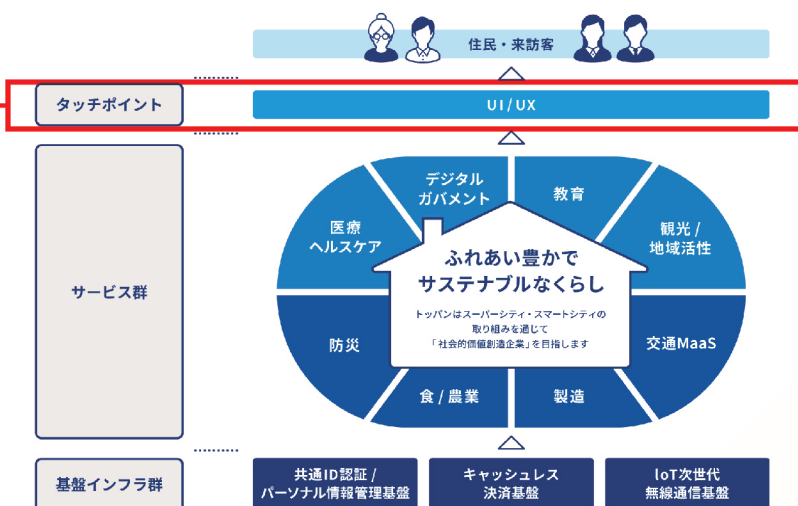
住民の方からの
問い合わせが多い

自治体サービスの
認知度が低い

住民とのデジタルタッチポイント整備にあたり、
自治体独自のネイティブアプリを作成できるASPサービス



「クラシラセル®」サービスイメージ



5つの特徴

- 1 住民ごとにパーソナライズされるアプリ
- 2 ユーザー目線で設計されたUI
- 3 住民の生活をDX
- 4 自治体のDXを促進し、業務負荷を軽減
- 5 データ連携基盤を介したリアルタイムデータ連携

基本機能

標準機能

パーソナライズプッシュ通知
登録された情報に応じてパーソナライズして情報を発信

地域マップ

地域ならではの情報をマップ上に表示

多言語対応

日・英・中・韓の4か国語へ表示変換が可能

サービス一覧

外部サイト・アプリへ遷移するリンクを設定

ご案内ナビゲーション

選択回答式で住民の方のお困りごとを解決

ごみ/イベントカレンダー

ごみ出し、イベント情報をカレンダー上に表示

無料オプション

カード表示

自治体で運用している割引証やカードをデジタル表示(指定QRで登録)

住民アンケート

住民の方向けにアンケートを配布可能

詳しくは下のQRコードから



クラシラセル® 導入事例



茨城県 つくば市様

デジ田交付金
TYPE1
採択事例

つくばスマートシティアプリ『つくスマ』

つくば市が推進する「つくばスーパーサイエンスシティ構想」の取り組みのひとつとして、「クラシラセル®」を活用し、つくば市オリジナルアプリ「つくスマ」が開発されました。自治体から発信する情報を一人ひとりの住民にパーソナライズし、適切なタイミングで情報を届ける仕組みを提供しています。

また、アプリを継続して使用してもらえるよう、自治体の職員や住民からの声を参考に、図書館利用カードのデジタル化なども追加実装しました。今後はさらに一方的な情報発信だけでなく住民の要望を市と共有するレポート機能や、市からのアンケートに住民が答えられる機能の実装など、行政と住民の双方向コミュニケーションサービスにアップデートしていきます。



追加機能（一部）のイメージ



POINT 情報のパーソナライズ化

登録された利用者の居住エリアに応じて、ごみの分別情報をカレンダー形式で表示。利用者が設定時に登録した属性や関心ごとに応じて、お知らせをプッシュ通知。

POINT 図書館利用カードなどのデジタル化

自治体が運用する割引証や図書館利用カードなどをデジタルで表示。住民にとっては、紙のカードを持つ必要がなくなり、アプリ一つで様々なサービスを受けることが可能。

POINT 移動車両の見える化（実証中）

移動スーパーやデマンド交通などの移動車両の位置情報をタイムリーにアプリ側に連携することで、住民の生活DXを後押し。

長野県 長野市様

デジ田交付金
TYPE1
採択事例

デジタル田園都市国家構想交付金事業で採択された【統合フロントアプリ構築事業】において、「クラシラセル®」を活用した長野市オリジナルの住民向けポータルアプリが2024年春にリリース予定です。

自治体と住民との接点の拡大を図るために、行政情報の一元化および住民のニーズにフィットした情報提供、住民と行政のコミュニケーションの機会を創出することが期待されています。

宮城県 名取市様

デジ田交付金
地方創生
推進タイプ
採択事例

デジタル田園都市国家構想交付金事業で採択された【名取市地域DX推進事業】の取り組みのひとつとして、「クラシラセル®」を活用した名取市オリジナルの住民向け情報発信ポータルアプリが、2024年春にリリース予定です。

住民の「施策認知度の向上」や「行政への住民参画」の促進を図るために、住民の行政情報へのアクセスを容易にするとともに、住民との双方向のコミュニケーションの機会を創出することが期待されています。